



第4回ふくしま復興再生可能エネルギー産業フェア2015 REIFふくしま2015開催案内

第4回ふくしま復興再生可能エネルギー産業フェア2015「REIFふくしま2015」が、今年も下記のとおり開催されます。このフェアは原子力に依存しない安全で安心な社会を創るため、福島県を再生可能エネルギー開発の先進地とすることを目的に、新たな産業の創出、関連産業の集積・育成や、関連産業でビジネスに取り組まれる企業・団体の皆様に技術・情報の収集、商談・交流の場を提供するものとして開催されます。

今年は、国内外から過去最多の176の企業、団体、支援機関等が郡山に集結します。

なお、当機構も展示ブースを設け、今年も、福島県再生可能エネルギー次世代技術開発事業に採択されている『農業施設用ハイブリット再生可能エネルギー利用システム実用化実験施設の模型』を展示するとともに、当機構の事業を来場者の皆様にご紹介します。

記

日時：平成27年10月28日(水)・29日(木) 10:00~17:00

会場：ビッグパレットふくしま(入場無料)

主催：公益財団法人 福島県産業振興センター



「REIFふくしま2014」開会式の様子



「REIFふくしま2014」展示品



「REIFふくしま2015」展示予定品

須賀川方部アドホック研究会 視察報告(宮城県)

～新たな知識と驚きが次の開発へのスタートに～

9月15日、須賀川方部アドホック研究会は、宮城県にある「株式会社GRA」と「東北電力株式会社仙台火力発電所・太陽光発電所」を視察しました。

株式会社GRAは、宮城県亶理郡山元町に位置し、東日本大震災で被災したこの地域の基幹産業であるイチゴ栽培を復活させるため、農業とITを融合させて品質管理をするほか、新たな栽培技術の開発やイチゴのブランド化などを通して販路拡大を目指す企業です。また、事業の一部として、復興庁・農林水産省との共同研究開発プロジェクト「食料生産地域再生のための先端技術展開事業(平成24~29年度)」を行っています。今回は、橋本洋平取締役副社長から、株式会社GRAの取り組みなどの説明を受けたほか、施設の見学や「ミガキイチゴ」のブランド名で出荷されているスパークリングワインの試飲をしました。短い時間でしたが活発な意見交換が行われました。

東北電力仙台火力発電所・太陽光発電所では、平成22年7月に営業運転を開始した仙台火力4号機の概要や震災時の被災状況などの説明を受けた後、世界最高水準の熱効率を誇るコンバインドサイクル方式のタービンを視察しました。屋外に出ると、ガスを利用する火力発電でありながらガスタンクは設置されておらず、新潟からパイプラインでガスを供給していることを知り、参加者は驚きを隠せない表情でした。

今回の視察研修を経て、様々な研究開発や企業経営の糧になればと思っています。今後も当研究会では視察や勉強会などを開催し、会員企業の発展や地域産業の振興に寄与することを目的に活動して参ります。

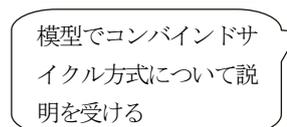
橋元取締役副社長から
取り組みなどの説明を
受ける(株式会社GRA)



「ミガキイチゴ」のブラン
ドで販売されているスパ
ークリングワインを試飲
(株式会社GRA)



模型でコンバインドサ
イクル方式について説
明を受ける



大型施設園芸実証研究
施設での意見交換
(株式会社GRA)



仙台火力発電所(奥)
と太陽光発電所



起業支援室No.9 バサルトアウス株式会社



Smart fiber of the earth

平成 27 年 6 月 1 日より入居しております
～よろしくお願ひいたします～

平成 27 年 6 月より入居し、業務を開始致しました。郡山市で起業して日は浅いですが、これまで多くの協力者の元、着実に前進しております。

バサルトとは火成岩の一種の玄武岩であり、これを熔融紡糸したものがバサルトファイバーとなります。このバサルトファイバーの使用用途は広範であり、あらゆる産業分野で使用されて行くと考えております。私たちは、この「逸材」の特性を日本大学工学部及び関連研究機関からのご協力を得て共同で研究開発し、安全で安心な製品の提供をしていきます。

—当社の主な事業内容—

1. バサルトファイバーを製造する事業及び技術高度化の研究開発
2. バサルトファイバーを利用した二次加工製品の開発及び販売
3. バサルトファイバー及びバサルトファイバーを利用した商品の輸出入並びに国内販売に関する事業

—当社の研究概要—

1. コンクリート構造体におけるバサルトファイバーの有効性
2. その他産業資材におけるバサルトファイバーの有効性



—今後について—

原子力・津波災害からの復興の一助となる製品も製造し、ここ福島県より供給する企業を目指します。

～ MADE IN FUKUSHIMA OF JAPAN ～

こおりやま産業博 KORIYAMA EXPO 2015 開催報告

9月19(土)、20(日)の両日、郡山市のビッグパレットふくしまにおいて、昨年まで開催してきた「農業・観光物産展」と「産業フェア～夢商い」を融合し、こおりやま産業博 - KORIYAMA EXPO2015 - とし、初めて開催されました。「ふるさと名物の発見と近未来を体験できる暮らしの博覧会」をテーマに市内外から約190の企業や団体・支援機関等が展示・販売コーナーを設け、ロボットなどの最新技術や伝統工芸、医療、介護、福祉など暮らしに役立つ情報の提供や地元の野菜や果物、特産品を販売するコーナーがあり、多くの来場者で賑わいました。

当機構も、支援機関のエリアにブースを設け、事業説明を行ないました。来場者は、再生可能エネルギー（ハイブリット温室）関係に興味を示し、隣り合う日本大学工学部のブースとともに、浅部地中熱利用について理解を深めることが出来たと好評でした。



開会式の様子



当機構ブースで事業説明

Connect 2015 in Koriyama, with UDC 開催報告

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会は、「IT やオープンデータを活用して地域の課題を解決する」をテーマに、8月29日(土)～30日(日)の二日間、合宿形式でハッカソン(プログラム開発イベント)「Connect 2015 in Koriyama, with UDC」を開催しました。

社会人や学生による9チーム・約45名が参加し、Google・シニアエンジニアリングマネージャーの及川卓也氏をはじめとする講師陣のサポートを受けながら、1泊2日でプログラミングに取り組みました。当イベントの1位は、エクセルのファイルを取り込むだけで誰でも簡単に位置情報として活用できる「ドットマップ」が受賞しました。

当協議会では、年度末のUDC(アーバンデータチャレンジ)コンテストへの応募に向け、参加者の皆さんの開発を継続してサポートしていきます。

